

## 松下電器創業者 松下幸之助 「休むのも仕事のうち」

松下電器の社員が病気で入院したとき、松下幸之助が直接見舞いに現れたことがありました。突然の訪問に驚き、起き上がろうとする社員に「起きなくてもいい、病人は休むものだ」と制して松下は言いました。

休むのも仕事のうち

「僕は若いころから体が弱かった、でも、今はのそ病気に感謝している。」  
「病気があったからこそ優秀な人に支えられて会社が大きくなった。」  
「君も病気から逃げようとしなくて、病気と仲良く親しみなさい。」  
「病気と親しくなれば、病気のほうから卒業証書を与えるものだ。」

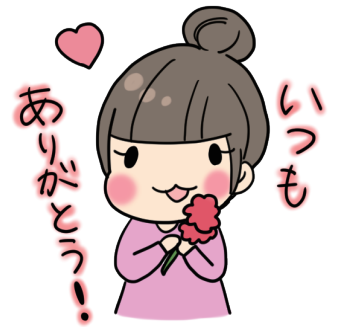


この言葉を聞いた社員はみるみる健康を取り戻し、予定していた半分の期間で退院しました。疲れたときや病気ときは、

「これも仕事だ！」

と考えなくてははいけません。

機械で例えれば、壊れているのに無理に動かすとより壊れてしまうものです。故障したら修理をするしかありません。



また、病気についての考え方でとても大切なことがあります。

病気になったら、悲しんでははいけません。

病気は、体を治そうとしてそのような痛みや症状がでてきます。

病気をしなければ、悪いことに気づかずに悪化し、最終的に壊れるか、死にます。

脳があなたの命をつなぐために頑張って治そうとして痛みや症状はでます。

その脳の善意に対して、悲しむ気持ちをもっていたら、脳みそはショックを受けないでしょうか？

もし、家族や友達に悪いことが起きそうなときに、それを未然に防いだとします。だけど、

「なんてことをしてくれたんだ！」

と逆切れされたらどういう気持ちになるでしょう？

重い病気になってしまったときには、簡単に受け入れられないので、そういう気持ちになるかもしれませんが、それがよいか悪いかで考えたときには、よいとは言えません。

病気になってしまったら「ありがとう」という気持ちを表し、脳みそに感謝が必要です。

調子が悪いときに、グチグチ考えるのではなく、ためしに「ありがとう」と脳みそに言ってください。

なんか、身体が軽くなる感じがしますよ。

そして、治すために結果を気にせず坦々とやれることをやる。

マイナス思考は体に害を与えます。あとは運次第、神様だよりです。

参考図書：

人生はワンチャンス、「仕事」も「遊び」も楽しくなる65の方法 著者：水沼敬也、長沼直樹

死ぬ瞬間 著者：キューブラーロス。